

# はしらざわ

第3号 平成三十年三月一日発行  
発行 柱沢地域まちづくり振興会  
編集 総務企画部会  
問合先 柱沢地区交流館 電話五七五〇八六〇

## 年頭にあたり

柱沢地域まちづくり振興会長 菅野 政一

新年あけましておめでとうございます。昨年もいろいろありましたが、特に北朝鮮のミサイルが日本の上空を二度も飛び越えて太平洋に落ちる事件がありました。伊達市では昨年四月から防災無線が整備されました。

その無線スピーカーからサイレンのような音が流れ北朝鮮からミサイルが発射された模様です。頑丈な建物に避難して下さいと二度流れました。

昔、戦時中に空襲警報発令のサイレンが鳴り防空壕に避難したそうですが、戦後七十年以上経っています。二度と戦争になつてもらいたくはないです。

平成も来年の四月で終わります。新しい元号になります。柱沢地区のまちづくり振興会も発足四年目になります。

復興もまだまだ途中です。今年柱沢にとつて良い年でありますようにと願望して挨拶と致します。



## 柱沢地区防災訓練

環境防災部会長 野田 昭

十月二十九日地区全体での防災訓練「第一回命を守るリハーサル」を行いました。

台風による降雨のため、地震体験車、煙ハウスは使えず救急救命に変更しての実施となりました。

市長の仁志田昇司様、校長の北村壽秋様他地区の方など百四十名の方々に参加していただき深く感謝申し上げます。

婦人会を中心とした炊き出し訓練ではおふかしと豚汁、保存食を試食していただきました。

訓練の継続を一番に掲げ災害に強い柱沢を目指して来年度も企画いたします。

お隣近所声かけてご参加ご協力をお願いいたします。





**紅屋峠千本桜大賞に野田達実さん**

第一回紅屋峠千本桜写真コンテストは五月十二日に柱沢交流館で行われ県内各地より五十名百四十五点の応募がありました。厳正な審査の結果紅屋峠千本桜大賞には野田達実さんの「千本桜の桜道」が選ばれました。その他の受賞者は以下の通りです。

柱沢地域まちづくり振興会長賞 山田茂様の「花ひらく丘」紅屋峠千本桜の会長賞 菅野美子様の「桜小径」紅屋峠千本桜顧問賞 坂本チヨ様の「賑わいの公園」福島民友新聞社賞 青柳勲様の「桜人」福島民報社賞 菅野利夫様の「散歩道」柱沢写真倶楽部長賞 八巻哲宜様の「満開」審査委員長賞には坂本禮三様の「紅屋峠の春」が選ばれ、その他入選五点佳作十一点の作品が選ばれました。

今年も五月に第二回紅屋峠千本桜写真コンテストを予定しておりますので地区内の皆様のご応募をお待ちしています。

総務 企画部会長 野田繁夫



花ひらく丘 (山田 茂)



千本桜の桜道 (野田達実)



賑わいの公園 (坂本チヨ)



桜小径 (菅野美子)



満開 (八巻哲宜)



散歩道 (菅野利夫)

古里の低名山、藁座山

高野自治会 会長 菅野 勝司

藁座山一帯は砂岩で柔らかいため風化により崩れた岩肌が昆虫の模様が現れることから伝えられています。

藁座山には弁当岩と呼ばれる奇岩等があり、山頂には「金華山」石に刻まれた神様と養蚕神が祀られています。例年桜の咲く春には、神社氏子の人たちにより神社への参道整備作業に汗を流します。

金華山神社は御利益のあるこの里の守り神と慕われています。

新たな年を迎え初詣と散歩を兼ね藁座山へ登った時の情景を記したいと思います。

高野地区は丘陵地にあり見晴らしの良いところですが、少しばかり高い山頂からは全方位ぐるりと見わたせ高山は雪に覆われた景観が広がっています。

西方には安達太良連峰、続いて吾妻連峰や栗子連山が幾重にも重なっています。すぐ足元から広がる信達平野の中に集落や田園風景が見下ろせ県北一円が一望です。

栗子連山より北方にはどっしりと円やかな半田山があり続いて稜線が越河の山々へ延びておりその上方に



藁座山へは土橋町内より農道を進み行し道路最高所より神社参道に入り徒歩約七分程で山頂に至ります。

は蔵王連峰の不忘山が裾野を広げ輝いています。南方には雨乞山や川俣町の女神山や花塚山が見え、さらに遠方には岩代町の日山がなだらかな稜線を見せています。南東には飯館佐須の山々に続いて霊山の岩峰が悠然と横たえています。

藁座山は安達太良連峰より蔵王連峰まで、まるで一筆書きで描いたように稜線が連なっておりこの眺望の中に著書「日本百名山」の三座までもが含まれています。この藁座山中腹には古墳群が発見されており、古代人もこの風景を眺めていたものと想いながら下山しました。

藁座山は四季折々の風景を眺望できる正に自然が造った展望台です。皆様も是非この風景を体験してはいかがでしょうか。

第32回柱沢地区文化祭の開催

柱沢地区文化団体連絡協議会 野田 繁夫

第三十二回柱沢地区文化祭は十一月三日に開催されました。例年ですと柱沢小学校の学習発表会やバザーと同じ日に開催されていましたが、十月二十二日は国政選挙と重なり、文化祭は単独開催となりました。

幼稚園児、小学校の児童、一般の人たち合わせて三百六十三点の作品が展示されました。

単独の開催で入場者数が心配されましたが、昨年から始まった写真展と吊るし雛の展示が好評だったようので例年通りの参観者がありました。

どうぞ今年の秋も三十三回目の文化祭を予定しておりますので地区内の皆様の作品をお待ちしています。



地域づくり部会長 大河原 明

今年度の振興会地域づくり部会の事業を振り返って見れば早いものでもう終盤をむかえてみると、みんな楽しんで事業を行えた事に、各方面からの協力に感謝の念に絶えない次第です。

九月の下旬に柱沢地区の歴史講演会で戊辰戦争で、棚倉藩の方々をあゝの動乱の時代、二百十名を所沢地区に分散居住させ、面倒を見た事実に驚くばかりでこの地区の風土を感じる物語であった気がしました。

また、十二月に開催した餅つき大会、しめ縄作りでは大先輩の講師八名の方々及び、餅米栽培の水田を提供して頂き管理をして頂いた先輩方と各方面の皆様にご御礼申し上げます。

しめ縄作り、もちつき大会には七十八名の参加を頂き、子供たちと大人と一緒に楽しみながら作ったしめ縄とおぼあちゃんと丸めた鏡餅、お正月に自宅に飾られていると、世代間交流事業の大きな成果ではないでしょうか。

どうか一人でも多くの方に振興会事業に参加して頂き柱沢地区を今後も盛り上げていけたらと思いますので引き続きご協力をよろしくお願い致します。



編集後記

はしらざわ広報誌第三号の発行に伴いご協力頂いた役員並びに関係者各位に感謝致します。

今回、柱沢ウォーキングの記事が掲載されていないのが残念で寂しいです。編集に当たり企画部の皆さんご苦勞さまでした。